

新型コロナウイルス感染症対策について

1 市内の感染者の発生状況（7月2日17時現在）

(1) 患者発生総数（神戸市発表分） 287人（市内在住者270人、市外在住者17人）

①市内認定こども園関連 4人（別途市外発表分2人）

②介護保険の通所事業所関係 5人

③神戸市立医療センター中央市民病院関係 36人

④神戸赤十字病院関係 36人（別途市外発表分1人）

⑤環境局須磨事業所関係 16人（別途市外発表分1人）

⑥神戸労災病院関係 3人

(2) 市内在住者の状況

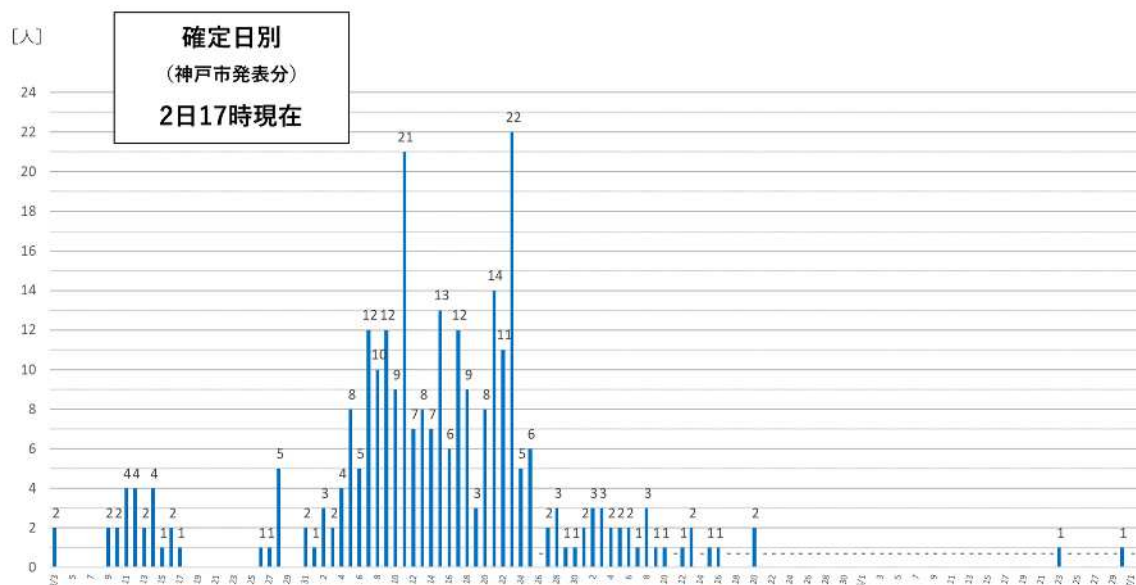
①入院・入居中 2人

②死亡 12人

③治癒確認（退院等） 256人

※検査で病原体を保有していないことが確認できた人（他疾患で入院中の人を含む）

市内の感染者発生状況（確定日別）



2 感染拡大防止

(1) 相談体制

①新型コロナウイルス専用健康相談窓口（令和2年4月8日～）

新型コロナウイルス感染症に対する健康不安、予防方法等の健康相談に対応するとともに、感染の疑いのある方の相談を受け必要に応じて帰国者・接触者外来を案内。（毎日24時間対応）

- ・運営体制 昼間 4回線 4人体制（最大 17回線）
夜間 2回線 2人体制（最大 5回線）

一般的な健康相談を目的に設置した「専用健康相談窓口」（2月1日設置：土日祝9：00～17：30、2月20日以降は毎日24時間対応）と、感染が疑われる方の相談に対応することを目的に設置した「帰国者・接触者相談センター」（2月6日設置：毎日24時間対応）を統合。

②チャットボットサービス（5月20日～）

新たな不安解決のツールとして、聴覚障害のある方や電話が苦手な方でも時間と場所を問わず、スマートフォン・タブレット等画面で気軽に相談先や受診先を確認。

③各保健センター、保健所予防衛生課（平日 8：45～17：15）

新型コロナウイルス感染症に対する健康不安、予防方法等の健康相談に対応

④相談実績（1月27日～7月1日）

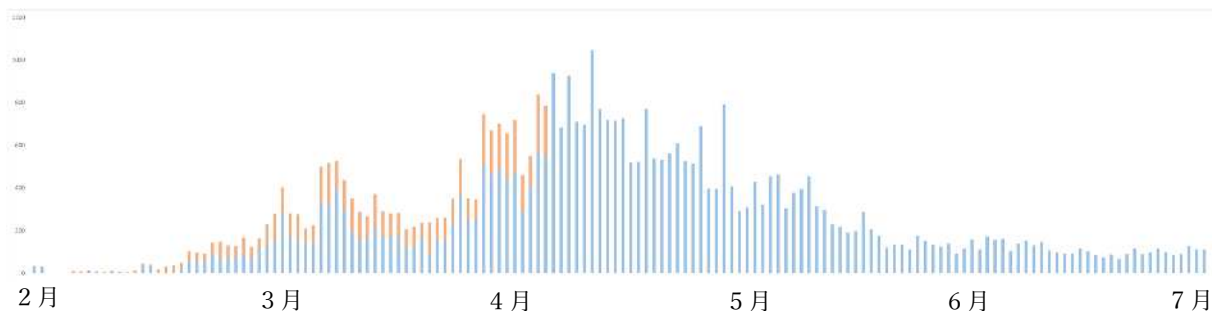
相談窓口	件数（件）
①各保健センター（1月29日～）、保健所予防衛生課（1月27日～）	8,466
②専用健康相談窓口（2月1日～4月7日）	10,707
③帰国者・接触者相談センター（2月6日～4月7日）	6,089
④新型コロナウイルス専用健康相談窓口（4月8日～）	26,531
⑤チャットボット相談（5月20日～）	4,289
計	56,082

※専用健康相談窓口最大相談件数：4月13日1,047件

※専用健康相談窓口直近（1週間）平均相談件数：106件（6月25日～7月1日）

■健康相談 2/19 までは土日祝日のみ ■帰国者・接触者相談センター

※4/8 からは新型コロナウイルス専用健康相談窓口に統合



(2) 検査体制

新型コロナウイルス感染症が疑われる場合に、適切にPCR検査等を実施し、迅速な治療と感染の拡大防止につなげる。また、感染が疑われる有症状者の減少に伴い、PCR検査件数が減少していることから、感染拡大の兆しや感染の広がりを早期に把握するため、戦略的に検査体制を強化する。

① PCR検査

(ア) 検査総数 4,972 件 (6月30日現在)

- ・新たな感染確認のための検査 3,772 件
- ・退院前治癒確認のための検査 1,200 件

※1日最大件数 5月1日 171 検体

(イ) 陽性率 7.6%

(ウ) 検査機関

行政検査：神戸市環境保健研究所

シスメックス衛生検査所 (シスメックスBMAラボラトリー)

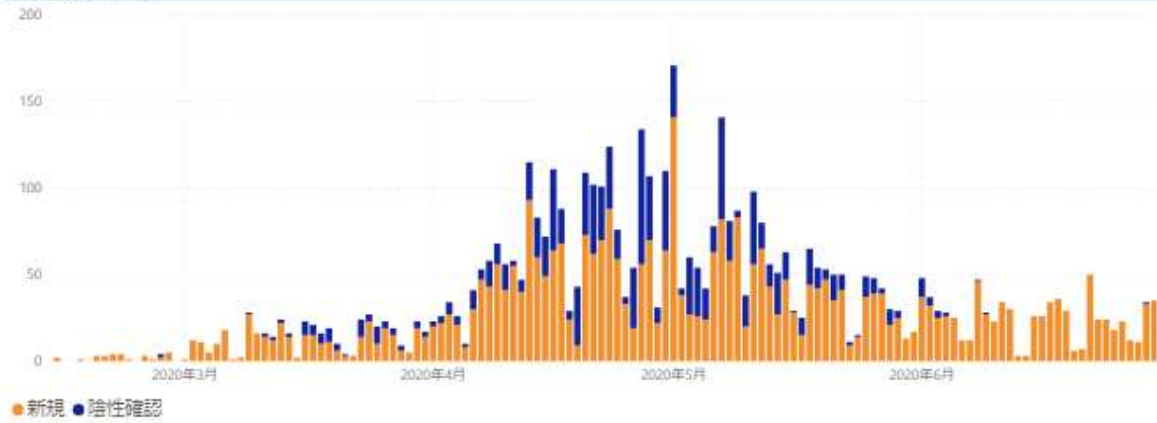
医療機関：市内4医療機関

神戸市新型コロナウイルス検査センター (神戸市医師会)

(エ) 検査可能数

検査機関	1日の最大検査可能数	開始時期
環境保健研究所	142 検体	1月30日～
シスメックス	100 検体	6月1日～
医療機関	200 検体	3月24日～
検査センター (市医師会)	20 検体	6月8日～
合計	462 検体	

検査数の推移



※新規とは、新型コロナウイルス感染症の患者であることが疑われる者等に対し、その診断を目的として行う検査。

※陰性確認とは、新型コロナウイルス感染症の治療を目的として入院等している者に対し退院可能かどうかの判断を目的として実施する検査。

②抗原検査

- ・PCR検査と同様に現在の感染の有無を判断する検査として、5月13日に抗原定性検査の公的医療保険の適用、6月25日に抗原定量検査の公的医療保険の適用。
- ・国におけるPCR検査と抗原検査の役割分担の検討・評価を踏まえ、帰国者・接触者外来、救急外来等で、現在の感染の有無の迅速な診断に積極的に活用。

③抗体検査

- ・臨床研究として4月に抗体検査を実施した神戸市立医療センター中央市民病院と共同で、外来患者の抗体保有状況のサンプリング調査を実施。
- ・前回の抗体検査の結果との比較など市内の感染拡大の状況（感染履歴の有無）を定期的に検証。

(ア) 調査方法

- ・中央市民病院の外来を受診した患者1,000人から採取した血液サンプルを使用
- ・対象患者の新型コロナウイルス抗体（IgG）の有無についてデータ収集。患者情報について匿名化したうえで連結。
- ・検査結果は本人や家族等には通知しない。
- ・検査結果を踏まえ、今後定期的な検査実施を検討

(イ) 研究期間

5月27日（研究倫理審査委員会承認日）～6月30日

(ウ) 使用する抗体検査キット

倉敷紡績株式会社製、Abbott社製（米国FDA＝食品医薬品局承認）

(エ) 研究実施体制

中央市民病院 感染症科医長 土井朝子を研究責任者として他8名（前回と同じ）

(参考1) PCR検査、抗原検査、抗体検査の違い

	PCR検査	抗原検査	抗体検査
調べるもの	ウイルスに特徴的な遺伝子配列	ウイルスに特徴的なタンパク質	ウイルスに感染後体内に出来る抗体
分かること	現在の感染の有無		過去の感染歴
検体の採取	鼻や喉の奥の粘膜等	鼻や喉の奥の粘膜等	血液
判定時間	4~6時間	15~30分	約15分
特徴	精度が高い	精度がPCR検査よりやや劣る	感染から抗体形成までに3週間程度

(参考2) PCR検査、抗原定性検査、抗原定量検査

検査の対象者		PCR検査		抗原定性検査 (富士レビオ：エスプライン) 検査キットを使用		抗原定量検査 (富士レビオ：ルミパルス) ※2 専用の機器が必要	
		鼻咽頭	唾液	鼻咽頭	唾液	鼻咽頭	唾液
有症状者 (症状が 消退した者 も含む)	症状発症日 (1日目)	○	○	△ ※1	×	○	○
	発症から 2~9日目以内	○	○	○	×	○	○
	発症から 10日目以降	○	×	△ ※1	×	○	×
無症状者		○	×	×	×	○	×

※1 △：抗原定性検査について、症状発症日及び発症後10日目以降の者が、
→ 陽性の場合…確定診断となる。
→ 陰性の場合…確定診断のため、追加検査（PCR検査等）を行う必要あり。

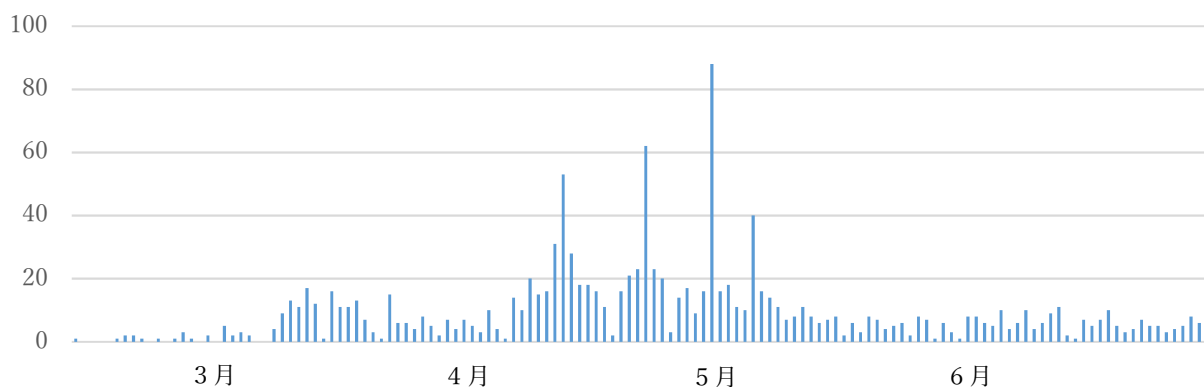
※2 抗原定量検査のためには、試薬に加え、専用の機器が必要
(試薬を使用できる機種は全国に約800台)。

3 医療提供体制の確保

(1) 外来医療体制

- ・ 2月5日に新型コロナウイルス感染症が疑われる人を診察する医療機関として、帰国者・接触者外来を設置。
- ・ 患者の発生状況を踏まえ順次拡大し、7月2日現在、市内に10か所設置（医療機関名は非公表）。
- ・ その他、検体採取については、市内の病院や診療所など107か所にて実施（7月2日現在）。

帰国者・接触者外来受診者数



(2) 入院医療体制

- ・ 緊急事態宣言解除後の、兵庫県対処方針（6月18日改定）を踏まえ、患者の発生状況等に応じて、必要な入院病床を確保。
- ・ 感染拡大期には、ICUなどの重症者用39床を含む約120床を、感染症指定医療機関である中央市民病院及び適切な感染予防策がとれる市内医療機関の連携のもと確保。

兵庫県対処方針（6月18日改定）におけるフェーズに応じた本市の入院医療体制

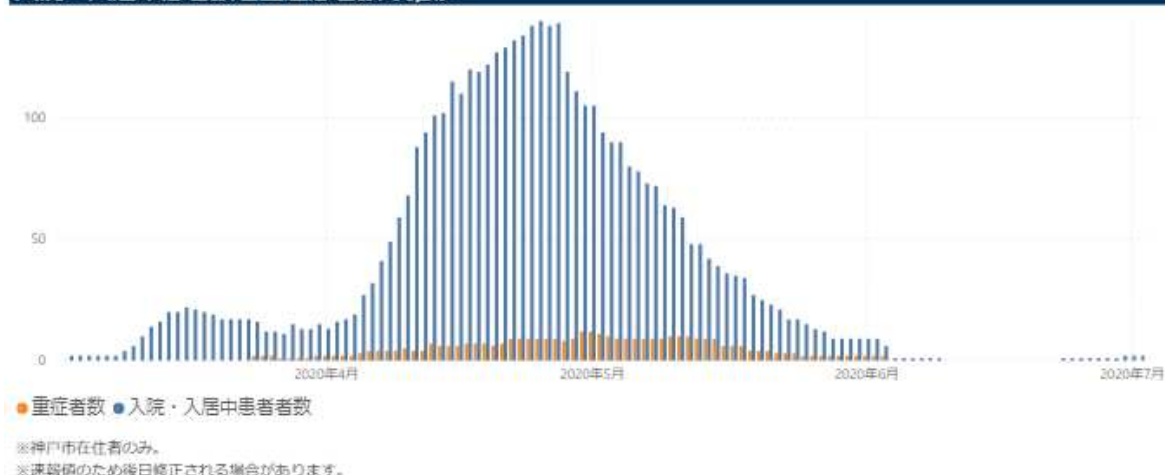
		感染小康期	感染警戒期	感染増加期	感染拡大期
県	新規感染者数 〔過去1週間の1日平均〕	10人未満	10人以上	20人以上	30人以上
	運用病床数 〔うち重症〕	200床 (40床)	300床 (50床)	400床 (70床)	500床以上 (90床以上)
市	市内運用病床数 〔うち重症〕	50床 (16床)	70床 (16床)	100床 (34床)	120床 (39床)

(3) 宿泊療養施設

- ・新型コロナウイルス陽性の判定を受けた軽症または無症状の患者で、医師の判断により入居し、治癒確認まで滞在。
- ・4月11日に株式会社ニチイ学館ポートアイランドセンター宿泊棟、4月30日にホテルパールシティ神戸を開設。
- ・ホテルパールシティ神戸については、入院調整に時間を要する場合には、自宅待機に代わる「入院前の滞在施設」としても活用。
- ・看護師を24時間体制で配置。医師、保健師による健康観察を実施。

施設名	開設日	入居可能人数	契約期間
株式会社ニチイ学館 ポートアイランドセンター 宿泊棟	4月11日	100名	令和2年度末まで
ホテルパールシティ神戸	4月30日	200名	7月30日まで

入院・入居中患者数と重症患者数の推移



最大入院・入居者患者数：4月25日 140人

4 風評被害防止

新型コロナウイルス感染症患者となったことで、患者本人やその家族は、生活にも影響を及ぼす偏見・差別などを受けている。

特に、医療機関や介護施設等の従事者は、自分が感染源になることを恐れ、日々心身のストレスを抱えながら業務に従事しており、このような状況が長期化すると心身の不調をきたす可能性が高まる。

市民への新型コロナウイルス感染症の正しい理解の促進に努めていく。

(1) 患者本人やその家族等コロナの影響を受けた方へのメンタルケア対策の取り組み

各区保健福祉部や精神保健福祉センターの専用電話において、保健師及び精神保健福祉士等がこころの相談を受け付けている。

(2) 医療従事者等への心のケアにかかる電話相談窓口の設置

医療従事者や社会福祉施設従事者等に特化して、心のケアを行うことを目的に6月26日から電話相談窓口を設置。

- ・相談時間：月～金曜（祝日除く）15：30～20：00
- ・風評被害に関すること、家族・友人・同僚、職場の上司等のサポートだけでは解決しにくい当事者のストレス反応やこころのSOSに対し、公認心理師、精神保健福祉士、保健師等の専門職が個別で話を聞きながら解決に向けてサポートを行う。

(3) 風評被害防止キャンペーンの実施

患者や家族が治療や健康観察の経験を踏まえて、その時に感じた事の「メッセージ」や、市民から医療介護従事者等に向けた「応援メッセージ」を募集する。

また、ポスター等幅広い媒体により広報を行い、キャンペーンを通じて市民に新型コロナウイルス感染症の正しい知識を啓発し、関係者に対する接し方、具体的な声かけや行動の一助とするとともに、市民全体で当事者をサポートする気運を高める。

5 熱中症対策

新型コロナウイルス感染症対策下での「新しい生活様式」とともに過ごす夏の「神戸市熱中症予防対応指針」を5月29日に策定。

(1) 趣旨

①新型コロナウイルス感染症対策の外出自粛・マスク着用により、例年以上に熱中症を起しやすくなっている。

(ア) 気温の上昇に体が適応できず熱中症になりやすい。

(イ) 運動不足で筋肉量が低下すると、筋肉中の水分量も減少して熱中症になりやすい。

(ウ) マスクの着用により熱放散が妨げられ、通常よりも熱中症の危険性が高まる。

②新型コロナウイルス感染症対応に加えて熱中症患者の増加により医療提供体制が守れなくなる。

(ア) 新型コロナウイルス感染症対応の状況下で、熱中症の救急搬送が増加すると、救急搬送体制と病床運営体制を圧迫する。

(イ) 熱中症と新型コロナウイルス感染症は、重症化すると症状が似ているため、医療機関では診療に際して新型コロナウイルス感染症対応が必要となり、貴重な医療資源が熱中症患者対応にも使用されることになる。

(2) 神戸市熱中症予防対応指針

①「新しい生活様式」の中での熱中症予防

- ・登下校時には、マスクの着用はしない
- ・2歳未満のこどもは、息がしにくくなるため、マスクの着用はしない
- ・マスクをはずす時間を増やす
- ・マスク着用時の注意
- ・暑さに慣れるまでは、うっすら汗をかく（暑熱順化）
- ・エアコンつけても、時々換気

②スタンダードな熱中症予防

- ・暑さを避ける
- ・こまめに水分補給する
- ・涼しい服装を心がける

(参考資料) 新型コロナウイルス対策とともに過ごす夏の『熱中症予防』
神戸市熱中症予防対応指針

令和2年 神戸市

今年の夏は、新型コロナウイルス感染症の対策が必要となり、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の『新しい生活様式』を取り入れながら、熱中症予防に努めましょう。

1. 「新しい生活様式」の中での熱中症予防

① 登下校時には、マスクの着用はしない

・児童生徒等の間に十分な距離を保ちましょう。

② 2歳未満のこどもは、息がしにくくなるため、マスクの着用はしない

③ マスクをはずす時間を増やす

・人と十分な距離（2m以上）が保てる時には、マスクをはずしましょう。

例）1人で家にいるとき、1人でのドライブ、1人での散歩

④ マスク着用時の注意

・強い負荷がかかる作業・運動は控えましょう。

・3密（密集・密接・密閉）な場所では、マスクの着用が必要ですが、時々、周囲の人との距離がとれる場所で、マスクをはずしましょう。

・マスクの着用により加湿されるため、のどの渴きを感じにくくなります。のどが渴いていなくても、こまめに水分補給を心がけましょう。

⑤ 暑さに慣れるまでは、うっすら汗をかく（暑熱順化）

・外出自粛のため、運動・外出の機会が減り、身体が暑さに慣れていません。

・暑さに慣れるまでは、毎日うっすら汗をかく程度の入浴や体調に合わせた運動を心掛け、体が暑さになれるようにしましょう。

⑥ エアコンつけても、時々換気

・人が集まる室内では、新型コロナウイルス感染症を予防するため、30分に1回、数分程度の換気が必要です。換気後は、エアコンの温度を下げ、室内の温度を下げましょう。

2. スタンダードな熱中症予防

① 暑さを避ける

・室内では、暑さを我慢せず、エアコンや扇風機を利用しましょう。

・神戸市HPでは毎日「暑さ指数（WBGT）※」をお知らせします。「暑さ指数」を確認し、暑い時間帯の外出や活動を避けるなど、無理のない範囲で活動しましょう。

※環境省ウェブサイト「環境省熱中症予防情報サイト」で「暑さ指数」を公表。

② こまめに水分補給する

・起床時や入浴時、外出前後など水分を摂る習慣（1日1.2リットル目安）をつくりましょう。

③ 涼しい服装を心がける

・ポリエステル等の速乾素材の服、体を締め付けない通気性の良い服、日傘や帽子を活用しましょう。

※下線部は、神戸市が厚労省・環境省の通知（令和2年5月26日）に追加

新型コロナウイルス感染症対策

新しい生活様式と ともに過ごす 夏の熱中症予防

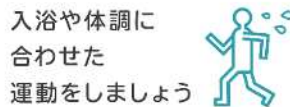


◎ 新しい生活様式と熱中症予防

マスクを外す時間を
増やそう



暑さに慣れるまで、
うっすら汗をかこう



エアコンをつけても、
ときどき換気をしよう



マスクをしている時、する時の注意

登下校時や2歳未満児はマスクを着用しないで

- 時々人との距離を取れる場所でマスクを外そう
- 強い負荷がかかる運動は控えよう
- 喉が渇いていなくてもこまめに水分を取ろう
- 3密な場所は、マスクを着用する



◎ いつもの熱中症予防も忘れずに

暑さを避ける

神戸市ホームページ
暑さ指数 (WBGT)
を確認



こまめな水分補給

1日1.2リットルが目安



涼しい服装

ポリエステルなどの
速乾素材、
通気性の良い
服を着用

